

さいたま市指定無形民俗文化財

「秋葉ささら獅子舞」の概要

さいたま市指定無形文化財「秋葉ささら獅子舞」は、今からおよそ450年前の室町時代に秋葉三尺坊の修験者が、村人に伝えたのが始まりと言われております。

さいたま市内には、幾つかの獅子舞が継承されておりますが、秋葉ささら獅子の大きな特徴を申し上げますと、少女4人が満開の桜を頭に頂いて、“ささら”を担当し満開の桜の下で舞の物語が進んで行く事です。

満開の桜無しでは舞は成り立ちません。

最初に若くて美しい女獅子が桜の花見に出掛けます。

満開の桜を見て女獅子は、若い中獅子に花見を勧めます。

話を聞いた中獅子は一人で花見に出掛けます。

しばらく花を見て楽しんだ中獅子は、今度は大獅子に花の見事さを伝えます。

大獅子も一人で花見に出掛けますが、別々に花見をしても楽しくありません。

そこで三人で花見に出掛けることになりました。

京岡崎の舞、綾太鼓の舞と続きます。

いずれも満開の桜の木の下で、飛んだり、跳ねたり、唄ったり三人で仲良く遊びます。

これらの舞の中で注意して見て頂きたい事があります。

それは女獅子の行動です。

いつも若い中獅子の後を追って行動します。

この事が後半の巢籠りの舞の重要ポイントとなるのです。

巢籠り舞に入りますと、あれほど仲良く遊んでいた大獅子と中獅子は、別々の花を見る様になってしまいます。

大獅子が女獅子の行動に不審をいだいての事です。

しかし、女獅子は相変わらず中獅子を追って行動します。

すると突然、女獅子は桜の中に隠れてしまいます。

女獅子は一心に中獅子の事を慕っているのに、中獅子は気付いてくれないので、すねてしまったのです。

大獅子と中獅子は長い時間、一生懸命 女獅子を捜します。

ようやく花の中に隠れている女獅子を見つけた中獅子が、花の垣根の向こうに女獅子を連れて行ってしまいます。

それを知った大獅子は大いに怒り、色々な動作をして女獅子の気を引こうとしています。

しかし、ことごとく中獅子にマネされてしまい効果がありません。

そこで若い中獅子をアメで騙そうとします。中獅子はアメなど欲しくない素振りでしたが、次第に美味しそうなアメにつられて、とうとう女獅子を奪われてしまいます。

中獅子を騙し、女獅子を奪う事に成功した大獅子は得意になり、ここぞとばかり中獅子を痛めつけます。

怒った中獅子は、大獅子と相撲で決着を付けようとしますが、大獅子に負けてしまいます。仕方なく、花の中に投げられたアメを捜す事にしました。

しかし、満開の桜の花の中ではアメは見付ける事ができませんでした。

若く元気のある中獅子は飛跳ねる運動に大獅子を誘い込み、高く跳ねたり、飛んだり(ハネコロガシ)をして大獅子を負かし、女獅子を取り返します。

怒った大獅子は角押し(相撲)をして来ます。力づくでも中獅子は負けませんでした。

最後に大獅子と中獅子は、争いをやめてまた三人で仲良く遊ぶ事になりました。

以 上

秋葉ささら獅子舞保存会